

# 学外サービスとの認証連携に備えて

Web サービスの認証連携に最適とされる Shibboleth を導入

北海道大学

本学では独自に認証局を立ち上げ、学内サービスのシングルサインオンを実現してきた。学外サービスとの認証連携に対応するため、Web サービス認証に最適と期待されている Shibboleth を導入し、認証技術やシステム構築のノウハウを蓄積している。

## 課題

本学では学内向けサービスの認証処理を効率的に行うため、学内に独自の認証基盤を構築してきた。このような基盤環境の整備は、職員向けサービスのシングルサインオン (SSO) の導入や身分証の IC カード化など、大学の情報環境の質向上に欠かせない取り組みである。本学の SSO 環境をさらに充実させ、電子ジャーナルなどの学外サービスの認証処理にも統一的に対応するため、欧米で注目されている Shibboleth による認証連携の導入を決定し、以来、その認証技術やシステム化のノウハウを蓄積している。

## 解決策

本学では、職員向けの様々な Web サービスの充実による利便性が高まる一方、サービスごとに異なる ID・パスワードが求められるといった認証作業の煩雑化が課題になっていた。こうした状況は他大学でもみられるもので、その解決策として ID・パスワードの統合や SSO の導入が検討されてきた。本学では平成 19 年に全学的な認証基盤の構築に着手し、その第 1 段階として職員向けの Web サービス群を共通の ID で安全に利用可能な SSO システムを実現した。これにより、本学の職員が行う認証作業はサービスを利用する際に一度だけ行えば、他のサービス利用では認証作業の必要がなくなった。

このように、学内の職員向けサービスの SSO 環境の構築と運用を推進してきたが、将来的には学外の機関が大学職員や学生向けに提供する認証付きの各種サービスについても、本学 SSO システムと連携した統一的な対応が必要になると考えている。それを実現する方法の 1 つが Shibboleth による認証連携機構の導入であった。

Shibboleth は、近年、異なる組織間での Web サービスの

認証連携で主流となりつつある認証技術で、国内では国立情報学研究所 (NII) が率先して取り組んでいるものである。

NII は学術認証フェデレーション (学認) を立ち上げ、具体的なサービスも提供している。本学も NII が行っていた実証実験に早い段階から参加し、IdP サーバの構築をはじめ、これらの最先端技術の習得とその基盤構築ノウハウを蓄積してきた。

## 結果

Shibboleth はオープンソースであり、安定した運用には積極的な情報収集が欠かせない。学認に参加することで、学認が主催するセミナーやフォーラムから最新情報を得たり、メーリングリストを介した参加メンバーとの意見交換の機会も増えている。特に学認の参加メンバーのほとんどが大学などの研究機関であり、先駆的な活用例を見ることができ、興味深い。

これらの経験は Shibboleth 技術の習得のみならず、具体的なサービスを考える際のヒントにもなるなど、将来的に活かすことができる貴重な経験になると考えている。今後とも参加大学が提供するサービスに注目するとともに、最新技術の習得に努めていく考えである。

(北海道大学 情報環境推進本部 情報基盤課 永井 謙芝)

